

## 地域共生社会の実現に向けた福祉医療実践 ③

## 『地域共生社会の実現に向けた福祉医療実践』

## ～買い物難民を救え！病院車両を活用した買い物支援の取り組み～

社会福祉法人 財団法人 済生会 神奈川県病院  
医療福祉相談室長 鎌村 誠司

## 1. 病院概要

所在地：横浜市神奈川区富家町6-6

病床数：199床(一般108床、地域包括ケア73床、緩和ケア18床)

診療科：消化器内科、糖尿病内分泌内科、腎臓内科、循環器内科、呼吸器内科、脳神経内科、消化器外科、乳腺外科、血管外科、呼吸器外科、整形外科、リハビリテーション科、皮膚科、泌尿器科、眼科、放射線科、緩和ケア科、歯科口腔管理科

## 2. 実践事例

～地域と共に109年目を迎えた病院として～

当院は横浜駅から一駅であり、みなとみらいや中華街といった観光地からも近い都市部の病院です。しかし、当院の周辺には戦前から住み続けている住民も多く、どちらかという下町の風情を色濃く残した地域です。また、済生会の第1号病院ということで、長らくこの地域と共に歩んできた病院でもあります。現在は一般急性期病院として、平日と土曜日の日中は救急

車も受け入れています。同時に訪問診療医からの入院依頼やレスパイト入院にも力を入れており、まさに地域包括ケアシステムの一翼を担う病院になっています。

そのような機能を持つ病院ということもあり、治療だけでなく、予防や健康の増進についても地域に貢献していきたいという思いもありました。そこで今回は当院の車両を活用した買い物支援の取り組みについて紹介したいと思います。

## ① 病院車両を地域へ提供

横浜市はあまり知られていませんが山や坂が多い地域です。当院の周辺も例外ではなく、家が高台にあるため急な坂や階段を上り下りする高齢者の姿や、道幅が狭く、デイサービスの車が対向車とすれ違えず立ち往生している光景もよく見かけます。また、バス路線も縮小が続いており、ちょっとした食料品を買うためにやむなく往復タクシーを利用している高齢者も多く存在しています。

そのようななか、当院が毎年商店街や大学生と一緒に取り組んでいる認知症啓発活動の会議

のなかで、たまたま地域包括支援センターのスタッフから買い物難民をどうにかしたいという話が出ました。その時にふと当院の透析の送迎車のことを思い出しました。当院は通院透析を実施しており、その送迎車が午後はいつも駐車場に停まっていたのを見かけていたからです。透析センターに確認すると13時半～16時半まではちょうど送迎の合間であり、稼働していないということでした。地域包括支援センターに早速連絡すると、是非その車両を活用して、地域の買い物支援の仕組みを作りましょうという話になりました。



## ② 買い物支援ネットワークへの参画

地域包括支援センターが、町内会長と民生委員さんに相談したところ町内会としても是非協力もしたいということになりました。また、この事業には社会福祉協議会の助成金が利用できることが分かり、社会福祉協議会と、認知症啓発の会議に参加していた大学生も参加してくれることになりました。この会議体は買い物支援ネットワークと名付けられ、代表は町内会長が務め、事務局機能は地域包括支援センターが担うことになりました。まずはメンバーで買い物難民が存在する地域を歩いてみることからス

タートしました。実際に歩いてみるとタクシーでも入っていけない地域に家があり、バス通りまでは相当な山坂を歩く必要があることが分かりました。

その後は、月に1～2回ほど町内会館で会議をもち、地図を広げて買い物バスの運行ルートやバス停の場所などを決めていきました。運行は月1回とし、その町内の方にとって一番身近な買い物スポットである大型スーパー(当院の隣)を2往復することになりました。当面は事前予約制として、その予約は民生委員がとることになりました。広報は町内会長が作成している会報に掲載し、それを回覧板や掲示板などで広報していくことになりました。バスの添乗員は大学生が担当してくれることになりました。当初はボランティアという扱いでしたが、謝礼として500円だけお渡しすることになり、その500円で買い物中は大型スーパーに入っているカフェで自由に過ごしてもらうことになりました。



## ③ 買い物は“おまけ”みたいなもの？

今年度は4回トライアル運行を実施し、そのつどアンケート調査を実施しました。乗車した方の9割以上の方がこの買い物バスが必要と回

答くださり、「月1回でも助かる」「また乗りたい」という声も多く聞かれました。アンケートを踏まえて、12月はいつもの大型スーパーではなく横浜駅前の百貨店へ行くことや、妊婦や小さい子連れのママさんたちにも利用してもらえるように呼び掛けていくことになりました。

私も2回ほど一緒に乗車させていただきましたが、買い物という行為自体はおまけみたいなものではないかと感じました。それは買い物に向かうバスのなかは顔見知りの方もいたせいか本当ににぎやかで、まるで遠足に向かうバスようだったからです。最近、孤独は健康に大きな悪影響を及ぼすというような研究報告をよく耳にするようになりました。乗車中に車内であふれる皆さんの笑顔を見て、こういった場こそが一番健康に寄与しているのではないかと思います。これからも地域の方と一緒に皆さんが笑顔になれるような場を作っていきたいと思えます。



### 3. おわりに

～地域とつながることで

大きな価値を提供できる～

この事業を通じて学んだことは病院単位では限界があるということです。今回の買い物支援ネットワークで当院が行っていることは月に3時間、車両とドライバーを提供しているだけです。この事業を病院単体で行うとかなりの負担になりますし、まず実現しなかったと思います。逆の言い方をすれば地域の方々や様々な団体とつながることで、こんなに素晴らしい事業が継続的に実施できるということです。そして、地域とつながるためには定期的に地域に向けてアンテナをはっておくことが必要だと思います。今回の取り組みも少しだけ触れましたが認知症啓発の事業に当院も参加していたことがきっかけでした。以前から近隣の商店街と大学が協働して認知症啓発の取り組みをしており、当院も2年前からその事業に参加させていただいていました。その時はまさかこのような事業につながるは思いませんでしたが、病院が地域とつながることで様々な可能性が生まれ、それが地域に大きな価値をもたらすということをこの事業を通じて実感することができました。



病院全景